



# H30年度 START 社会還元加速プログラム (SCORE) 説明会

2018年5月

産学連携展開部

START事業グループ



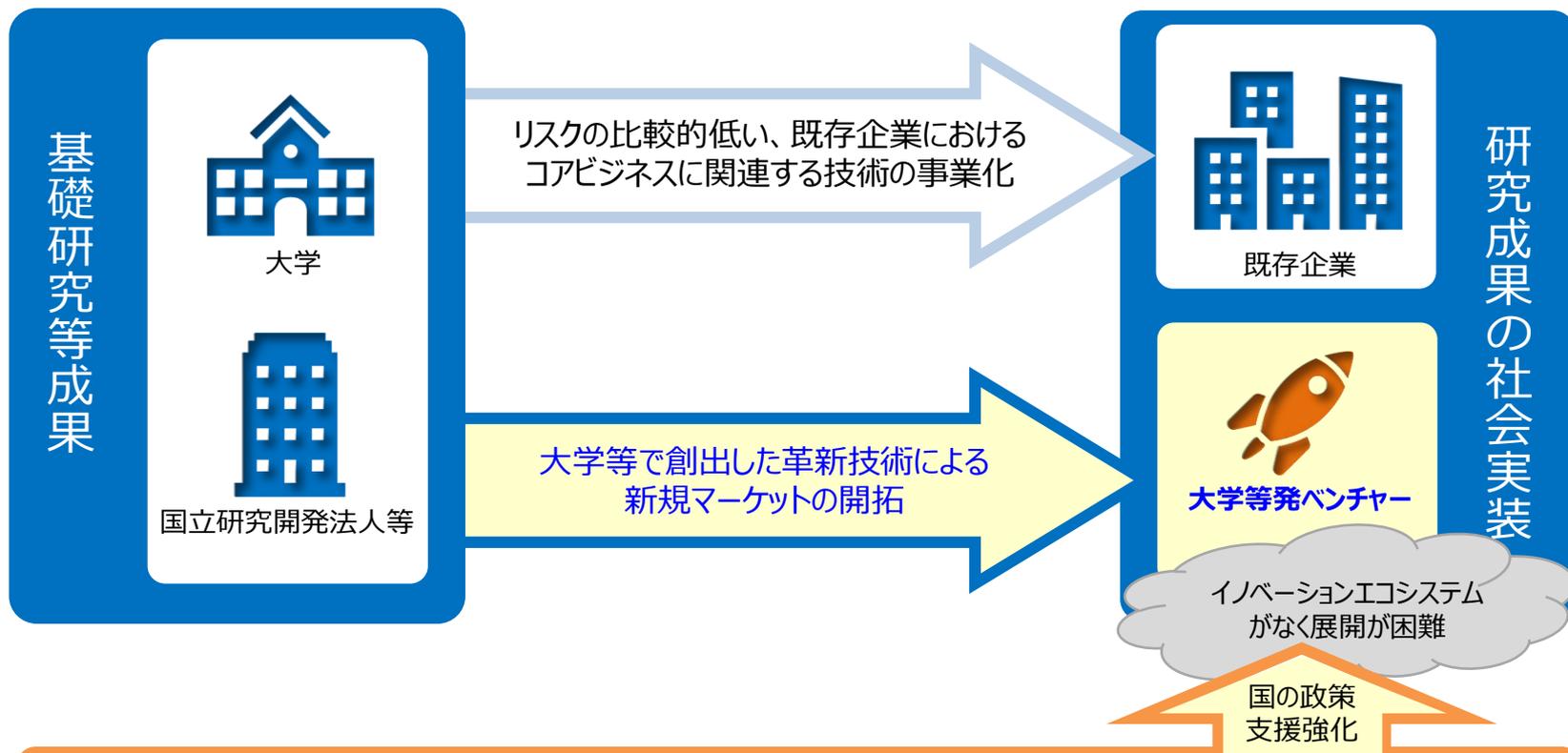
科学技術振興機構

# 本日のアジェンダ

開始時刻	プログラム内容	スピーカー等
17:00	ご挨拶	JST
17:03	講演 -アカデミアの研究からの事業創造とは-	株式会社ゼロワンブースター (教育実施機関)
17:20	ワークショップ -自分の研究を事業にするとしたら？-	株式会社ゼロワンブースター (教育実施機関)
17:30	SCORE2017 Alumni (同窓生) パネルディスカッション	株式会社ゼロワンブースター (教育実施機関) /ゲスト
18:00	SCORE2018の公募について	JST
18:20	質疑応答	JST/株式会社ゼロワンブースター (教育実施機関) /ゲスト
18:30	交流会	希望者 (会費制)
19:00	終了	

# START事業の目的

## (1) 大学等発スタートアップ創設による研究成果の社会実装



### ・大学発新産業創出プログラム (START)

- ・日本再興戦略2016
- ・オープンイノベーション共創会議
- ・第5期科学技術基本計画
- ・大学発ベンチャーファンドの拡大
- ・未来投資戦略2017

(2012年度から開始)

(重要施策として「ベンチャー創出力の強化」)

(大きな柱の一つに「大学発ベンチャー支援強化」)

(第5章に「新規事業に挑戦するベンチャー企業創出強化」)

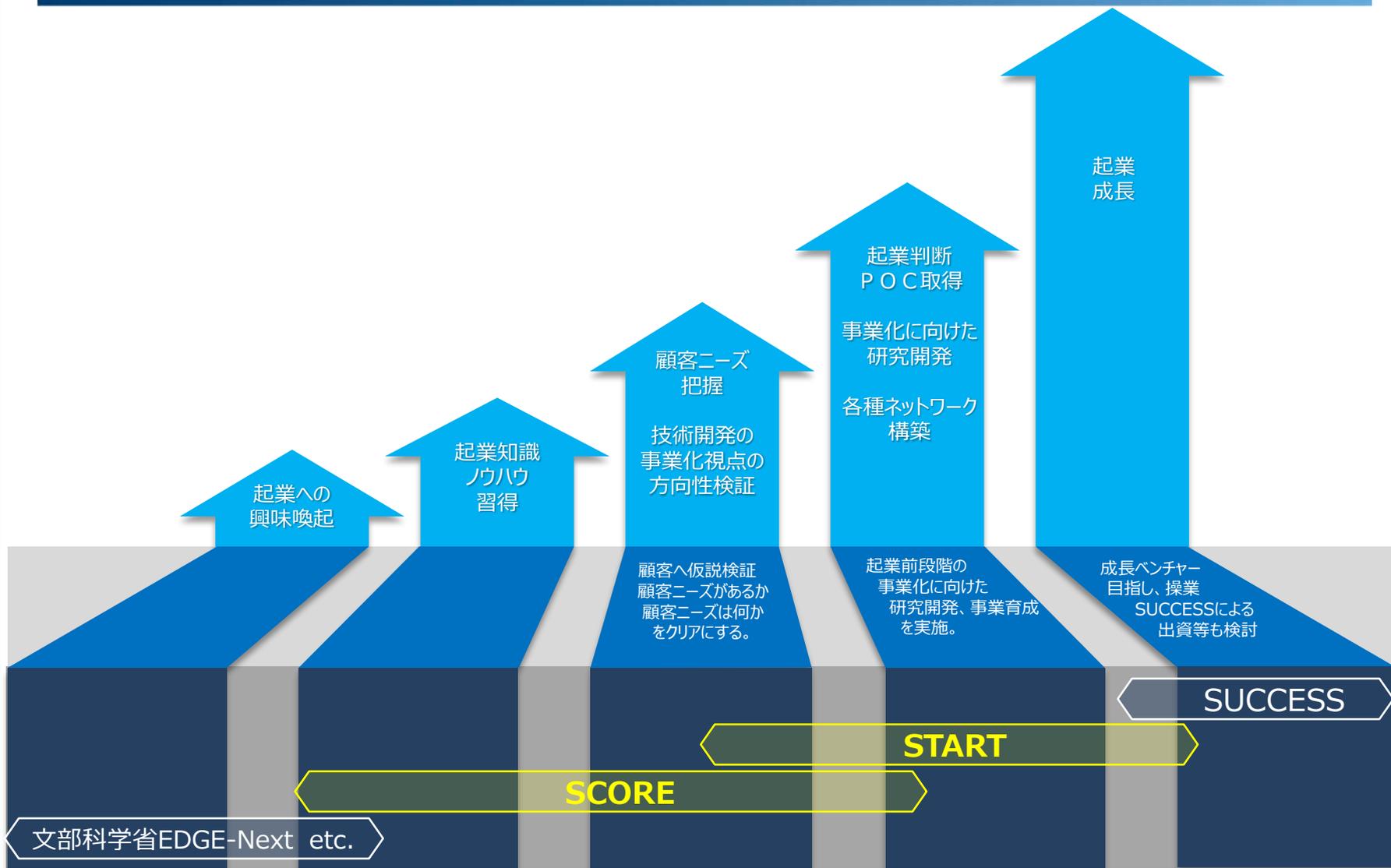
(国立4大学に補正予算1,000億円でベンチャーファンド設立)

(ベンチャーの自発的・連続的な創出を加速)

等

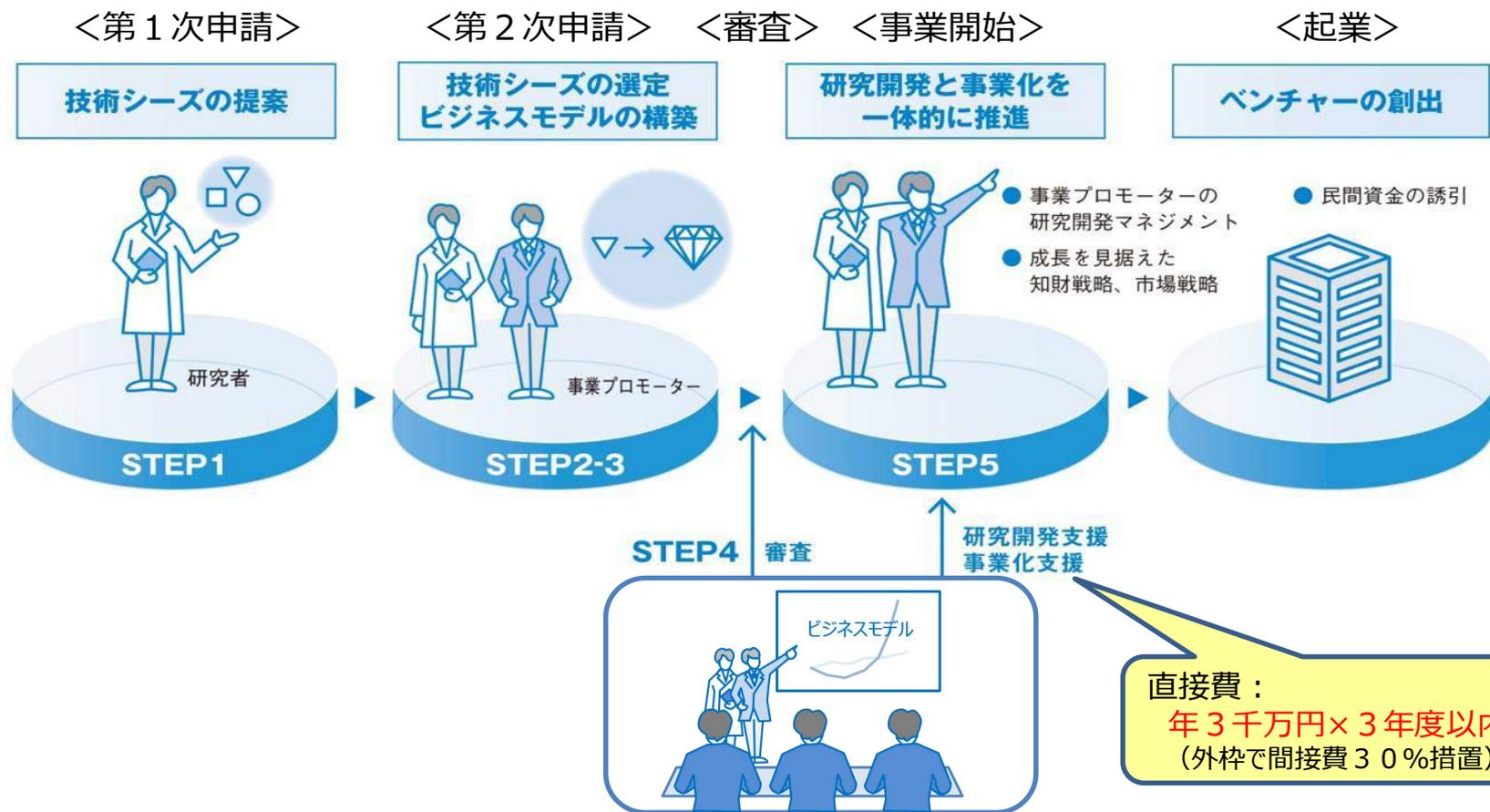
# START事業の目的

## (2) JST関連のスタートアップ支援事業の位置づけ



# START事業のしくみ

-「プロジェクト支援型」の申請～支援終了までの全体像-



国費によるSTART事業で目指すのは「企業価値の高い、成長ベンチャー（start-up）の設立」

※ START支援は“通常の研究開発助成”や“一般的な会社設立助成”とは異なります。

# START事業実績

## -START発ベンチャーの創出、ステップアップ状況-

- 採択プロジェクト (PJ) 総数 (H24~29年度)

94 PJ

- 終了PJ総数 (H30年3月1日時点)

70 PJ

【起業率】 44%

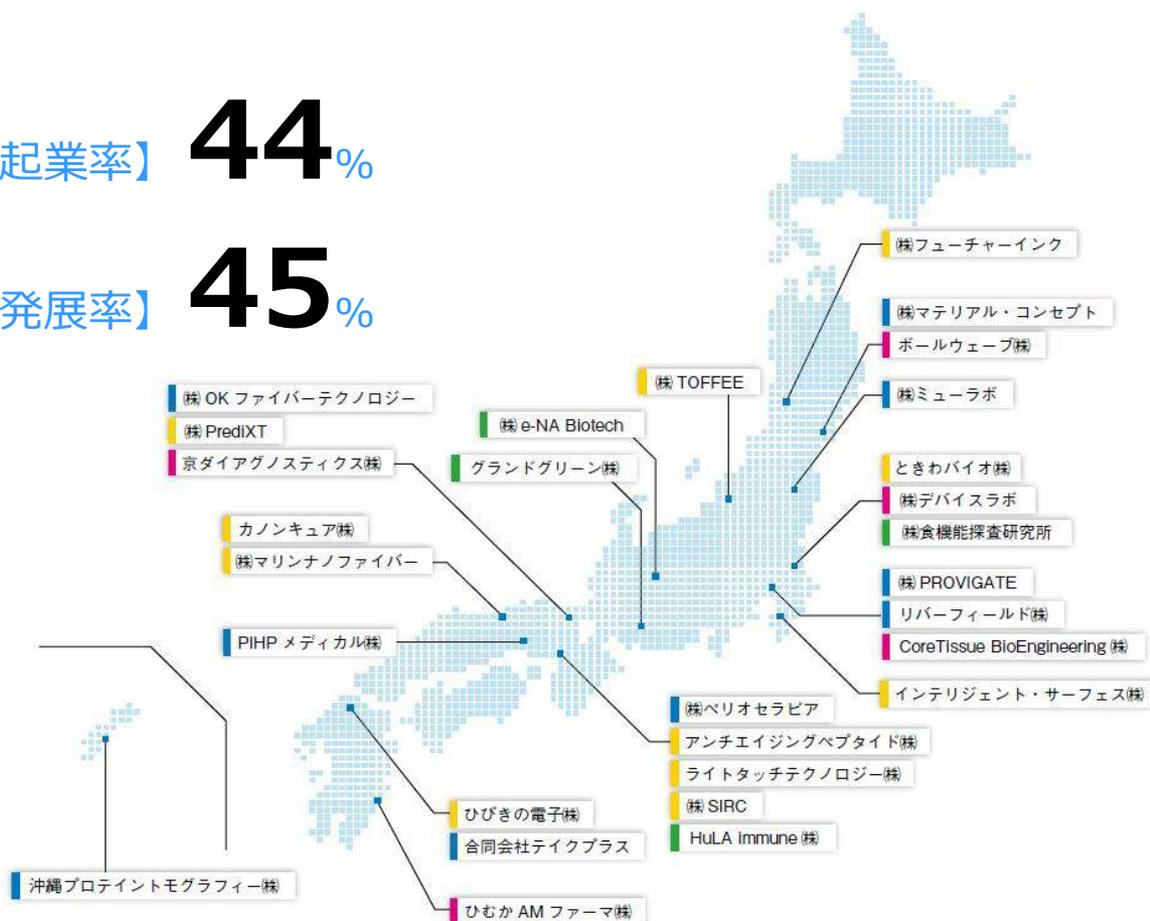
- VB設立数  
(H30年3月1日時点)

31 社

【発展率】 45%

- ステップアップVB数  
(出資1億円以上調達など)

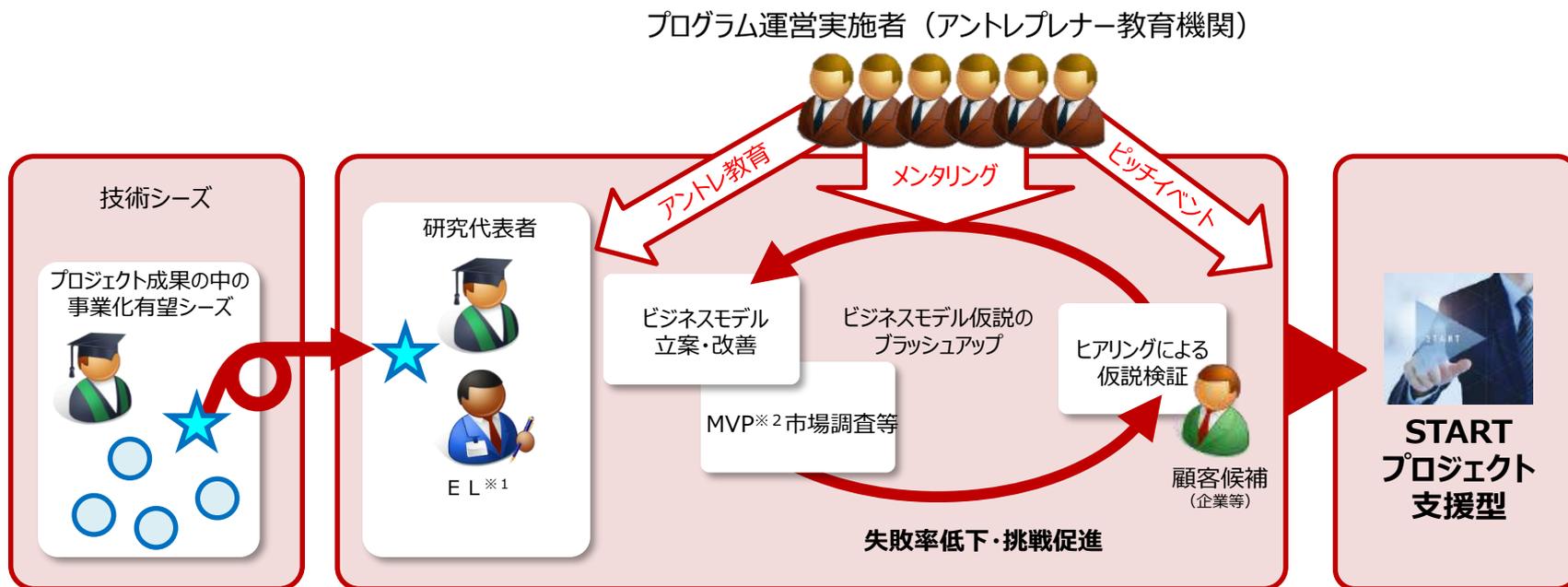
14 社



# 社会還元加速プログラム「SCORE」

## (1) 概要

**大学等の優れた技術シーズ等の社会還元を加速、充実させるため、研究者やアントレプレナー候補者にリーンスタートアップ手法等の起業に係る実践的な学びを支援します。出資獲得等につながる、成長力のあるベンチャー創出を促進するため、顧客ヒアリング等の実践を通してビジネスモデル仮説を高度化、現実化（ブラッシュアップ）していきます。**



※1 「EL」とはEntrepreneur Lead（アントレプレナー志望者、候補者）の略称を意味します。研究代表者の技術を基にした起業化の展開において、ビジネスモデルの仮説立案および検証等の活動を中心的行う者。学内外を問わず、研究代表者と二人三脚の協働で活動を行える者を想定しています。

※2 「MVP」とはMinimum Viable Productsの略称を指します。完全な製品を目指す開発手法と異なり、事業仮説の検証が目的なので最小限の機能に絞り込んだ試作物等を指します。必須機能が欠如していても事業仮説の検証できれば許容します。

# 社会還元加速プログラム「SCORE」

## (2) 受講者概要

### 研究代表者



- ・自らの技術シーズの社会還元をSCOREの支援で事業育成を加速することを望む者。
- ・SCORE実施期間中にMVP製作等の事業育成にかかる研究開発を中心的に行う者。
- ・ELに対して技術協力を惜しみなく提供する者。

#### 【要件等】

- ・技術シーズ（原権利）を有する者であること。
- ・原権利が特許の場合は、その発明者、もしくは発明に関わった者であること。
- ・申請時及び研究開発期間中に日本国内に居住し、かつ日本国内の大学等に常勤の研究者として所属していること。

### EL (Entrepreneur Lead)



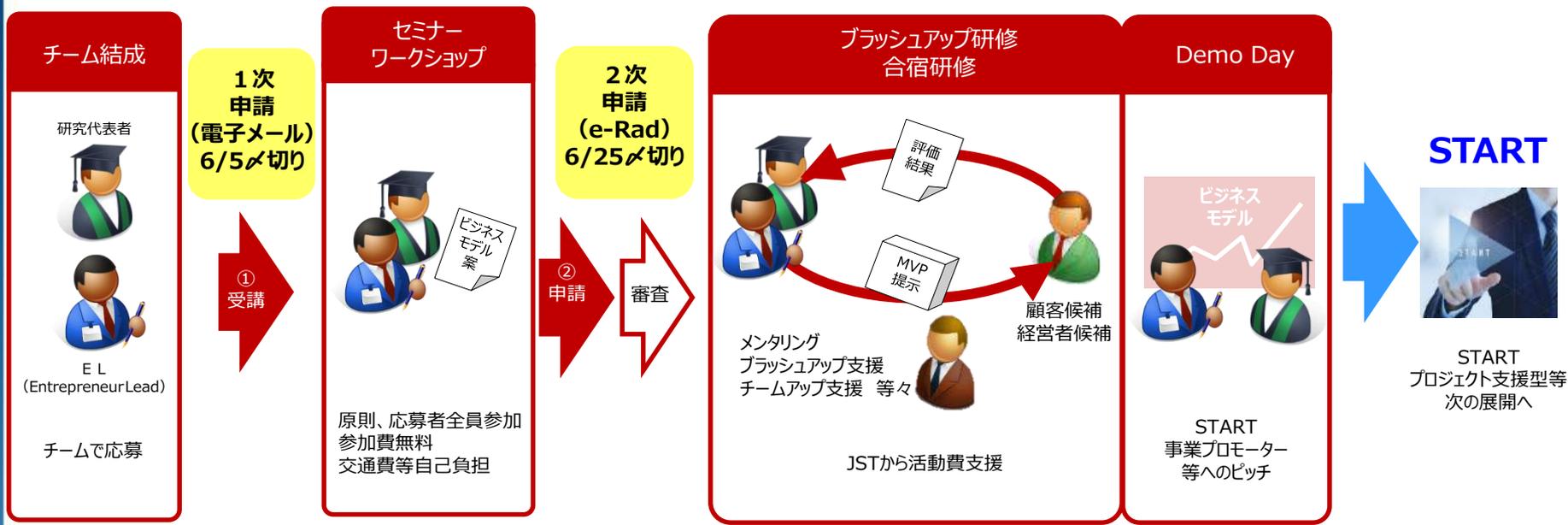
- ・研究代表者の技術を基にした起業化の展開において、ビジネスモデル仮説の立案および検証の活動を中心的に行う者。
- ・学内外を問わず、研究代表者と二人三脚の協働で活動を行える者。

#### 【要件等】

- ・SCOREの全活動に主体的参加が可能で、ビジネスモデルの仮説立案および検証等の活動を中心的に行うためのエフォートを十分に確保できること。
- ・本成果にて起業を行う際にも参画する意思、関心を有していること。
- ・研究開発の期間中、日本国内に居住していること。
- ・研究代表者とコミュニケーションをとって協働で活動できること。
- ・研究代表者の技術を基にした起業化に興味をもち、アントレプレナー候補となりうる意欲や熱意を持つ者であれば、研究室内外、学内外を問わない。
- ・ベンチャー起業や企業における事業活動経験等が無い者（例：研究室に所属するポスドクやURA等）であっても、SCOREを通してアントレプレナー能力の修練を目指す者であれば可。研究機関の了解があれば学生も可。

# 社会還元加速プログラム「SCORE」

## (3) プログラムの流れ



- ①活動実施期間 : 単年度
- ②活動経費 (直接経費) : 原則、年300万円
- ③採択数 : 15件程度 (平成29年度は16件採択)
- ④募集期間 : 平成30年4月16日 公募開始
- ⑤対象分野
  - ・MVPを期間内に顧客候補に1回以上提示可能な技術分野。
  - ・MVPの安全な顧客評価が可能な技術分野。

# 社会還元加速プログラム「SCORE」

## (4) H29年度 採択課題一覧

### 〈課題一覧〉

社会問題の解決を起点とする事業化を志向した竹を原料とする次世代材料の製造開発	大分大学
複眼IoTセンサの事業化検証のためのドローン搭載用多次元画像情報取得複眼カメラの開発	大阪大学
ミリ波レーダの車両近傍界計測	岐阜大学
テラヘルツ偏光イメージング分析技術の成果事業化検証のための装置開発	慶應義塾大学
個性や利用状況に応じて最適な方法で行動意欲を引き出す人工知能および同技術搭載の行動促進アプリ事業化検証のための科学的有効性が検証された行動促進手法搭載のソフトウェア開発	国立情報学研究所
光駆動エネルギー再生型スマートセルの作製	静岡県立大学
後付けが容易なIRビーコンによる屋内測位技術の利活用	筑波大学
薬剤探索支援の事業化を目的とする薬剤候補分子の高効率な分離改善技術の検証	東京大学
フィールドモニタリング技術事業化検証のためのサービス化手法の開発	東京大学
カビの殺菌が可能な農産物の瞬間乾燥粉末化技術の開発と事業化検証	東京農工大学
ドライエージェントロボットシステムの事業化検証のためのスマホアプリの開発	名古屋大学
骨髄間葉系幹細胞の磁気ターゲティング装置の開発	広島大学
機能性高分子ゲルを用いた飲料水浄化用重金属除去剤の開発	広島大学
感性的・機能的価値を付与する開閉力の可制御ドアの開発	広島大学
活性酸素光除去技術の事業化検証への可視光敏感水素生成光触媒の開発	物質・材料研究機構
ロボット技術を応用した全自動歯ブラシの事業化検証のための歯垢除去機構の開発	早稲田大学

### 〈DemoDayの様子〉

(ピッチによるビジネスモデル説明)

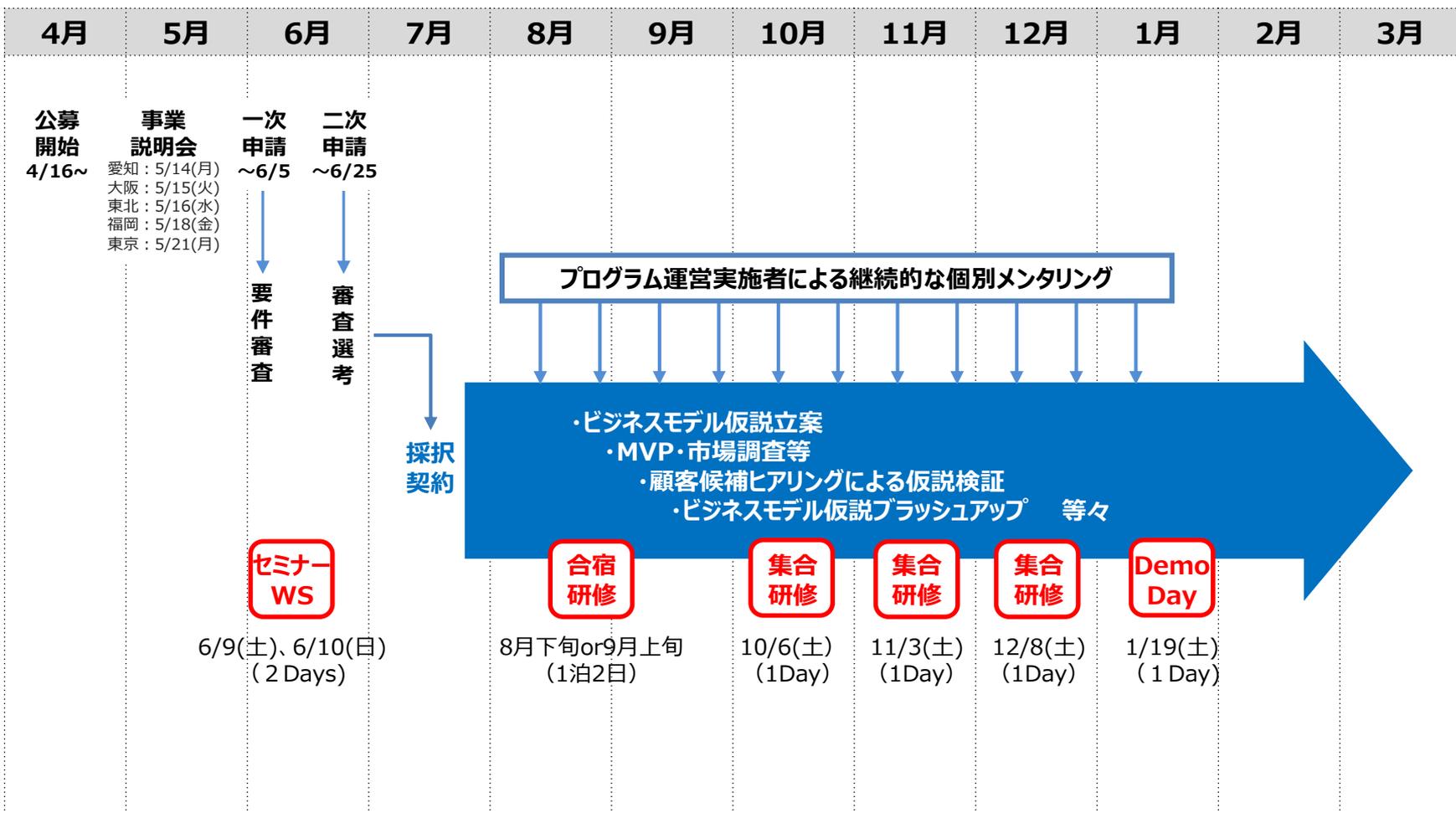


(展示ブースによるMVP展示)



# 社会還元加速プログラム「SCORE」

## (5) スケジュールイメージ



※変更となる場合があります。

# 社会還元加速プログラム「SCORE」

## (6) 代表的なQ&A

### ●ELの対象範囲はどこまでか。

研究代表者と共に、起業に向けた活動を行って頂く起業志望者等がELとなります。

対象者としては、事業化経験のある方が望ましいですが、研究代表者の研究室に所属するポスドクや所属大学URA等でベンチャー起業や企業における事業活動経験等が無い者であっても、SCOREを通して、アントレプレナー能力の修練を目指す者であればよく、研究機関の了解があれば学生も可能とする。

### ●研究代表者、ELともに導入セミナー・ワークショップ日程に参加できない場合はどうなるのか。

導入セミナー・ワークショップについては参加必須となります。導入セミナー・ワークショップ不参加の場合、2次申請（審査申込）はできませんのでご注意ください。

研究代表者とELの両名のご出席を想定していますが、どうしても1名しかご出席できない場合、出席者が欠席者に内容を詳細に伝え、欠席者は十分に内容を理解していただくことを求めます。

ワークショップを基に作成するビジネスモデル仮説も、研究開発費配賦および研修に参加頂く研究開発チームを選定するための採択審査資料となりますので、どうしても2名とも都合がつかない場合は、次年度以降にあらためてご検討いただければ幸いです。

#### 3.7 審査の観点例（公募要領29ページ）

- ・技術シーズ（原権利）の事業化視点での独創性、先見性
- ・MVP製作の実現性および想定顧客評価の実施可能性
- ・ビジネスモデル仮説の検討状況
- ・仮説検証するニーズ（ユーザー、市場、社会）とMVP開発内容の整合性
- ・チームの体制および研究開発計画の妥当性
- ・実施チームの事業家活動への意欲とチームワーク
- ・将来に向けた事業展開のビジョンの実現性

# 申請書類の提出方法

## - 1次申請（セミナー・ワークショップ参加申込） -

- ・研究代表者により、JSTに電子メールにて提出
- ・申請書様式は本事業のウェブサイトから取得 (<http://www.jst.go.jp/start/score/jigyo/index.html>)

### <電子メールにおける提出ファイル>

- ①様式1：1次申請書（H30yousiki\_score\_1.doc）
- ②様式2：ビジネスモデル仮説検討書（H30yousiki\_score\_2.ppt）
- ③様式3：活動予算案（H30yousiki\_score\_3.xls）
- ④プロジェクト参画者の略履歴書（専門分野、研究開発経歴等）
- ⑤研究開発費理由書（外注費が50%を超える場合）

- ・電子メールの件名は、「【SCORE・1次申請】機関名」としてください。
- ・添付ファイル名は、「機関名」を付けて送信してください
- ・電子メールサーバーの都合上、添付ファイルは10MB以下でお願いします。

・1次申請（セミナー・ワークショップ参加申込）締切：6月5日（火）正午

・提出先

国立研究開発法人科学技術振興機構

産学連携展開部 START事業グループ、E-mail： [start-score@jst.go.jp](mailto:start-score@jst.go.jp)



# 申請書類の提出方法

## - 1次申請（セミナー・ワークショップ参加申込） -

H30yousiki\_score\_2.ppt

### 1. SWOT考察

強み・Strength	弱み・Weakness
・XXX ・XXX  <b>【この記入要領欄や記入例は削除して提出ください】</b> ・このフォーマット例の幅・高さは変更してかまいません。 ・SWOTについて不案内の場合、たとえば以下のURLなどを参考にしてください。 <a href="http://www.meti.go.jp/committee/materials/downloadfiles/g50513a40i.pdf">http://www.meti.go.jp/committee/materials/downloadfiles/g50513a40i.pdf</a>	・XXX ・XXX
※エントリー申請の段階では検討中といった記載があってもかまいません（出来なくても問題ありません）が、修正申請の締切段階では全て記載してく	
機会・Opportunity	脅威・Threat
・XXX ・XXX	・XXX ・XXX

### 2. ビジネスモデルキャンバス考察

パートナー (Key Partners)	主要活動 (Key Activities)	価値提案 (Value Propositions)	顧客との関係 (Customer Relationships)	顧客 (Customer Segments)
・XXX	・XXX	・XXX	・XXX	・XXX
・XXX	・XXX	・XXX	・XXX	・XXX
<b>【この記入要領欄や記入例は削除して提出ください】</b> ・このフォーマット例の幅・高さは変更してかまいません。 ・ビジネスモデルキャンバスについて、不案内の場合、たとえば、以下のURLなどを参考にしてください <a href="http://www.mext.go.jp/component/a_menu/science/detail/_icsFiles/afieldfile/2015/09/16/1360950_14.pdf">http://www.mext.go.jp/component/a_menu/science/detail/_icsFiles/afieldfile/2015/09/16/1360950_14.pdf</a> ※エントリー申請の段階では検討中といった記載があってもかまいません（無理に全ての欄を記載することは出来なくても問題ありません）が、修正申請の締切段階では全て記載してください。				
	リソース (Key Resources)		チャネル (Channels)	
	・XXX ・XXX		・XXX ・XXX	
コスト構造 (Cost Structure)			収益の流れ (Revenue Streams)	
・XXX ・XXX			・XXX ・XXX	

# 申請書類の提出方法

## - 1次申請（セミナー・ワークショップ参加申込） -

H30yousiki\_score\_3.xls

SCORE 活動要望予算案		
(単位:千円)		
予算費目	提案予算額	用途
①物品費 (設備備品費 および消耗品費)	1,200	●●製造装置MVPモジュール・顧客候補評価用
	300	研究資材(無塵服・手袋等)・クリーンブース実験のため
②人件費・謝金		
③旅費	180	(SCORE研修) 大阪⇄東京、3回、2名、集合研修参加
	60	(SCORE研修) 大阪⇄関東地方、1回、2名、宿泊研修参加(宿泊施設までの往復旅費)
	60	(SCORE研修) 大阪⇄東京、1回、2名、DemoDay参加
	120	(事業化活動) 大阪⇄福岡、2名、2回、顧客候補打合せ
	20	(事業化活動) 近郊、1千円×20回、知財戦略等打合せ
④その他 (外注費および その他経費)	320	XX計測技術の知財調査・〇〇株式会社
	400	XXの成分分析・〇〇株式会社、競合技術調査
	500	XX駆動部の図面作成・〇〇株式会社
	140	顧客候補評価用MVP輸送費
⑤小計 (①+②+③+④、ただし、 (SCORE研修)にかかる旅費を除く)	3,000	
⑥小計 (①+②+③+④)	3,300	
⑦間接経費(⑥の30%)	990	
総計(⑥+⑦)	4,290	

※原則として人件費の支出は想定していません。  
ただし、以下の場合には支出対象となります。  
・研究開発を実施するために必要であり、臨時的に発生する役務の提供などの外部の協力を得た人への謝礼に必要な経費  
・外部有識者からの指導・助言を得るために支払う謝金

# 平成30年度公募・問い合わせ先

〒102-0076

東京都千代田区五番町7 K's五番町

国立研究開発法人 科学技術振興機構  
産学連携展開部 S T A R T 事業グループ

TEL : 03-5214-7054

FAX : 03-3238-5373

E-mail : start-score@jst.go.jp

- ・ 機構ホームページ : <http://www.jst.go.jp>
- ・ 大学発新産業創出プログラム : <http://www.jst.go.jp/start>
- ・ 募集要領・申請書ダウンロード : <http://www.jst.go.jp/start/boshu/h30/howto>